

平成 28 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

平成 28 年 (2016 年) 11 月 7 日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)

2 発生作物名 : トマト (施設栽培)

3 特殊報の内容 山口県で初発生

4 発生経過

(1) 発生確認月日 : 平成 28 年 8 月 30 日

(2) 発生地域 : 長門市

(3) 発生状況

施設トマトの育苗ハウスにおいて、コナカイガラムシ類の成虫と幼虫を確認した。採集した成虫の同定を神戸植物防疫所に依頼した結果、クロテンコナカイガラムシと確認された。

また、同育苗ハウス内において、雑草のスベリヒユに寄生する本虫の成虫と幼虫を確認した。

なお、10 月に発生ほ場を調査したところ、本虫の発生密度は減少していた。

(4) 他県での発生状況等

日本では、沖縄県 (スイゼンジナ、ヒマワリ)、佐賀県 (ナス)、福岡県 (ミニトマト、ナス)、愛知県 (食用トレニア、食用金魚草) で発生が確認されている。

海外では、中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、スリランカ、インド、パキスタン、エジプト、イラン、トルコ、オランダ、西アフリカ、北米～南米、オーストラリア、ニューカレドニアに分布している。

5 本虫の特徴

(1) 被害の特徴

トマトでは、本虫の吸汁によるものと考えられる新葉の生育障害 (萎縮、奇形) が確認されたが、本虫の除去後は目立った症状は見られなかった (図 1、2)。

(2) 形態

雌成虫は翅を欠き、体型は楕円形。体長は 3～4.2mm。時に 5mm を超える。背面に白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見える。ロウ質物は亜中央部で薄くなるため、2 対の黒斑があるように見える (図 3)。

(3) 生態

本種は、海外ではワタ、トマト、ナス等 154 種の植物に寄生することが確認されている。

成虫は、平均 350 個程度産卵する。

繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。単為生殖個体群の場合、本種における 1 世代の発育期間は平均 70 日程度である。



図1 トマトの被害



図2 トマトに寄生する本虫



図3 成虫（中央）と幼虫（周辺）

6 防除対策

- (1) 茎葉等に寄生する成幼虫と、それらが分泌する甘露及び甘露によるすす病を目安に、早期発見に努める。
- (2) 発生を確認した場合は寄生部位を除去して、土中に埋めるなど適正に処分する。
- (3) 雑草は本虫の発生源となる可能性があるため、ほ場周辺の除草周辺の除草対策を徹底する。
- (4) 現在のところ、トマト及びその他野菜類において、本種に適用のある農薬はない。